『竹取物語』冒頭

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。
今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。
分け入って　取っては、　いろいろなことに

名をば、さぬきの造となむいひける。
名を、「さぬきの造」といった。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。
（ある日）その竹の中に、根元の光る竹が　一本あった。

①あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。
近寄って見ると、　光っている。

それを見れば、※三寸ばかりなる人、②いとうつくしうてゐたり。
三寸ほどである人が、　座っている。

翁言ふやう、
翁が言うことには、

「我、朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて知りぬ。
「私が毎朝、毎晩見る竹の中にいらっしゃるのでわかりました。

子になりたまふべき人なめり。」とて、
（私の）子におなりになるはずの人のようです。」と言って、

手にうち入れて、家へ持ちて来ぬ。妻の嫗に預けて養はす。
手（のひら）に入れて、　任せて育てさせる。

うつくしきこと、限りなし。いと幼ければ、籠に入れて養ふ。
この上ない。　たいそう幼いので、　籠に入れて育てる。

その後、翁はたびたび黄金の入った竹を見つけるようになり、次第に裕福になっていきました。翁と嫗に育てられた子は三か月ほどで美しい娘に成長し、「※なよ竹のかぐや姫」と名づけられました。

※三寸…一寸は約三センチメートル。三寸はここではきわめて小さいという意味で用いられている。
なよ竹…細くてしなやかな若い竹。

古文の読み方

古文では、主語や助詞などがなかったり省略されていたりする。古文を読むときは言葉を補いながら読むとよい。

（例）…竹取の翁といふ者＜が＞ありけり。＜竹取の翁は＞野山にまじりて…

重要語句

よろづ	いろいろ・全ての事
あやしがる	不思議に思う
いと	とても・たいそう
うつくし	かわいらしい
ゐる	座る・いる
おはす	いらっしゃる
……たまふ	お……になる

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣い(づか)に直したものとなるように、解答欄(かいとうらん)に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

さぬきの造となむいひける

さぬきの造と〔　　　〕

(2) 次の言葉を現代仮名遣いに直したものとなるように、解答欄に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。

いとうつくしうてゐたり

いと〔　　　〕

(3) ——線①「あやしがりて」の意味を選びなさい。

ア 美しく思って　**イ** 恐(おそ)ろしく思って
ウ 不気味に思って　**エ** 不思議に思って

〔　　　〕

(4) ——線②「いとうつくしうて」の意味を選びなさい。

ア ちょっときれいな様子で
イ とてもかわいらしい様子で
ウ わずらわしく思っている様子で

〔　　　〕